

Fujii et al
Filed 1/22/04
Q79526
10f1

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

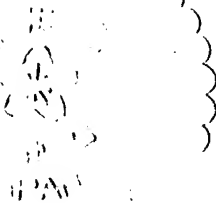
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 1月27日

出願番号
Application Number: 特願2003-017820
[ST. 10/C]: [JP2003-017820]

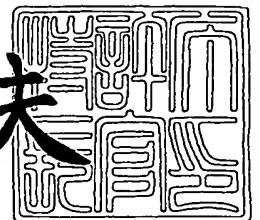
出願人
Applicant(s): NECエレクトロニクス株式会社



2003年12月26日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3107825



【書類名】 特許願

【整理番号】 71130004

【提出日】 平成15年 1月27日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01L 21/82

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地 N E C エレ
クトロニクス株式会社内

【氏名】 藤井 太郎

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地 N E C エレ
クトロニクス株式会社内

【氏名】 古田 浩一朗

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地 N E C エレ
クトロニクス株式会社内

【氏名】 本村 真人

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地 N E C エレ
クトロニクス株式会社内

【氏名】 安生 健一朗

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地 N E C エレ
クトロニクス株式会社内

【氏名】 矢部 義一

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

【氏名】 栗島 亨

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

【氏名】 戸井 崇雄

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

【氏名】 中村 典嗣

【特許出願人】

【識別番号】 302062931

【氏名又は名称】 N E C エレクトロニクス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100088328

【弁理士】

【氏名又は名称】 金田 暢之

【電話番号】 03-3585-1882

【選任した代理人】

【識別番号】 100106297

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊藤 克博

【選任した代理人】

【識別番号】 100106138

【弁理士】

【氏名又は名称】 石橋 政幸

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 089681

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1



【包括委任状番号】 0216444

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 アレイ型プロセッサ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 個々にデータ設定される命令コードに対応してデータ処理を個々に実行する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントの動作状態を状態管理部が前記命令コードからなるコンテキストにより動作サイクルごとに順次遷移させるアレイ型プロセッサであって、

多数の前記プロセッサエレメントが複数のエレメント領域に区分されており、これら複数のエレメント領域に 1 個の前記状態管理部が接続されており、相違する前記動作サイクルに発生する所定数の前記動作状態が前記コンテキストの少なくとも一部に設定されており、

1 つの前記コンテキストに設定されている所定数の前記動作状態に対応した前記エレメント領域の動作を前記状態管理部が前記動作状態の発生しない前記動作サイクルのときに一時停止させるアレイ型プロセッサ。

【請求項 2】 個々にデータ設定される命令コードに対応してデータ処理を個々に実行する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントの動作状態を状態管理部が前記命令コードからなるコンテキストにより動作サイクルごとに順次遷移させるアレイ型プロセッサであって、

多数の前記プロセッサエレメントが複数のエレメント領域に区分されており、これら複数のエレメント領域に同数の前記状態管理部が個々に接続されており、

相違する前記動作サイクルに発生する所定数の前記動作状態が前記コンテキストの少なくとも一部に設定されており、

1 つの前記コンテキストに設定されている所定数の前記動作状態に対応した前記状態管理部が接続されている前記エレメント領域の動作を前記動作状態の発生しない前記動作サイクルのときに一時停止させるアレイ型プロセッサ。

【請求項 3】 個々にデータ設定される命令コードに対応してデータ処理を

個々に実行する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントの動作状態を状態管理部が前記命令コードからなるコンテキストにより動作サイクルごとに順次遷移させるアレイ型プロセッサであって、

多数の前記プロセッサエレメントが $(a \times b)$ 個のエレメント領域に区分されており、

これら $(a \times b)$ 個のエレメント領域の b 個ごとに a 個の前記状態管理部が個々に接続されており、

相違する前記動作サイクルに発生する所定数の前記動作状態が前記コンテキストの少なくとも一部に設定されており、

1つの前記コンテキストに設定されている所定数の前記動作状態に対応した前記エレメント領域の動作を接続されている前記状態管理部が前記動作状態の発生しない前記動作サイクルのときに一時停止させるアレイ型プロセッサ。

【請求項4】 前記状態管理部が一時停止させる前記エレメント領域の複数の前記プロセッサエレメントの一部を動作させる請求項1ないし3の何れか一項に記載のアレイ型プロセッサ。

【請求項5】 複数の前記エレメント領域で共有される共有リソースも設けられており、

複数の前記エレメント領域から前記共有リソースへのパスを前記状態管理部が切り換える請求項1ないし4の何れか一項に記載のアレイ型プロセッサ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、データ処理を個々に実行するとともに相互の接続関係を切換制御する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントを状態管理部で動作制御するアレイ型プロセッサに関する。

【0002】

【従来の技術】

現在、各種のデータ処理を自在に実行できるプロセッサユニットとしては、い

いわゆるCPU (Central Processing Unit) やMPU (Micro Processor Unit) と呼称される製品が実用化されている。

【0 0 0 3】

このようなプロセッサユニットを利用したデータ処理システムでは、複数の命令コードが記述された各種のアプリケーションプログラムと各種の処理データとがメモリデバイスに格納され、プロセッサユニットはメモリデバイスから命令コードや処理データを順番にデータ読出して複数の演算処理を逐次実行する。

【0 0 0 4】

このため、一個のプロセッサユニットで各種のデータ処理を実現できるが、そのデータ処理では複数の演算処理を順番に逐次実行する必要がある、その逐次処理ごとにプロセッサユニットがメモリデバイスから命令コードをデータ読出する必要がある、複雑なデータ処理を高速に実行することは困難である。

【0 0 0 5】

一方、実行するデータ処理が1つに限定されている場合には、そのデータ処理を実行するように論理回路をハードウェアで形成すれば、プロセッサユニットがメモリデバイスから複数の命令コードを順番にデータ読出して複数の演算処理を順番に逐次実行するような必要はない。このため、複雑なデータ処理を高速に実行することが可能であるが、当然ながら1つのデータ処理しか実行することができない。

【0 0 0 6】

つまり、アプリケーションプログラムを切替自在としたデータ処理システムでは、各種のデータ処理を実行できるが、ハードウェアの構成が固定されているのでデータ処理を高速に実行することが困難である。一方、ハードウェアからなる論理回路では、データ処理を高速に実行することが可能であるが、アプリケーションプログラムを変更できないので1つのデータ処理しか実行できない。

【0 0 0 7】

このような課題を解決するため、本出願人はソフトウェアに対応してハードウェアの構成が変化するデータ処理装置として、アレイ型プロセッサを発明して出願した。このアレイ型プロセッサでは、小規模の多数のプロセッサエレメントが

多数のスイッチエレメントとともにデータパス部に行列形状に配列されており、この 1 個のデータパス部に 1 個の状態管理部が並設されている。多数のプロセッサエレメントは、個々にデータ設定される命令コードに対応してデータ処理を個々に実行するとともに、個々に並設されている多数のスイッチエレメントに相互の接続関係を切換制御させる。

【0 0 0 8】

つまり、アレイ型プロセッサは、多数のプロセッサエレメントと多数のスイッチエレメントとの命令コードを切り換えることでデータパスの構成が変化するので、ソフトウェアに対応して各種のデータ処理を実行することができ、ハードウェアとして小規模の多数のプロセッサエレメントが簡単なデータ処理を並列に実行するので、データ処理を高速に実行することができる。

【0 0 0 9】

そして、上述のような多数のプロセッサエレメントと多数のスイッチエレメントとの命令コードからなるデータパス部のコンテキストを状態管理部がコンピュータプログラムとイベントデータとに対応して動作サイクルごとに順次切り換えるので、アレイ型プロセッサはコンピュータプログラムに対応して並列処理を連続的に実行することができる。

【0 0 1 0】

また、上述のアレイ型プロセッサでは、状態管理部が順次遷移させる複数段階の動作状態と、データパス部で順次切り換えられる動作サイクルごとのコンテキストと、が一对一に対応する。しかし、本出願人が特願 2 0 0 2 - 3 0 4 2 2 2 号として出願したように、複数の動作状態を 1 つのコンテキストに設定することも可能である。

【0 0 1 1】

例えば、複数の動作状態をスケジューリングした結果、図 4 (a) に示すように、プロセッサエレメントの割付個数が少数の動作状態が発生することがある。このようにデータ生成された複数の動作状態を複数のコンテキストに一对一に設定すると、あるコンテキストではアレイ型プロセッサに配列されているプロセッサエレメントの極一部しか動作しない状態が発生する。

【0012】

そこで、連続する複数の動作状態でプロセッサエレメントの割付個数を順次積算し、その積算個数が所定の許容個数を超過するごとにコンテキストを移行すれば、図4(b)に示すように、複数のコンテキストの各々に極力多数のプロセッサエレメントを設定することができる。

【0013】

例えば、第一から第三の動作状態が第一のコンテキストに設定され、第五および第六の動作状態が第三のコンテキストに設定された場合、そのオブジェクトプログラムに対応して動作するアレイ型プロセッサでは、図5に示すように、第一の動作サイクルでは第一のコンテキストの第一の動作状態のデータ処理が実行され、第二の動作サイクルでは第一のコンテキストの第二の動作状態のデータ処理が実行され、第三の動作サイクルでは第一のコンテキストの第三の動作状態のデータ処理が実行される。

【0014】

第四の動作サイクルでは第一のコンテキストが第二のコンテキストに切り換えられて第四の動作状態のデータ処理が実行され、第五の動作サイクルでは第二のコンテキストが第三のコンテキストに切り換えられて第五の動作状態のデータ処理が実行される。

【0015】

上述のように複数の動作状態を1つのコンテキストに設定すると、アレイ型プロセッサでのデータ処理の所要時間は1つの動作状態を1つのコンテキストに設定した場合と同一であるが、コンピュータプログラムにデータ設定されるコンテキストの個数が削減されるので、コンピュータプログラムのデータ容量を減少させることができる。さらに、状態管理部によるデータパス部のコンテキストの切回数も削減できるので、その消費電力も低減することができる。

【0016】

また、上記には1つのコンテキストに連続する二つの動作状態を設定することを例示したが、二つ以上の動作状態を設定することも可能であり、図6および図7に示すように、連続しない複数の動作状態を設定することも可能である。この

場合は、状態管理部によるデータパス部のコンテキストの切換回数は削減できない場合もあるが、コンピュータプログラムにデータ設定されるコンテキストの個数は削減することができる。

【0 0 1 7】

上述のようなアレイ型プロセッサは、本出願人が過去に提案している(例えば、特許文献1 参照)。

【0 0 1 8】

【特許文献1】

特開 2 0 0 1 - 3 1 2 4 8 1 号

【0 0 1 9】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上述のようなアレイ型プロセッサで実際に単純に1つのコンテキストに複数段階の動作状態を設定しても、そのコンテキストの動作サイクルのときに複数段階の動作状態が同時に発生してしまう。

【0 0 2 0】

本発明は上述のような課題に鑑みてなされたものであり、コンテキストに複数の動作状態が設定されても良好に機能するアレイ型プロセッサを提供することを目的とする。

【0 0 2 1】

【課題を解決するための手段】

本発明のアレイ型プロセッサは、個々にデータ設定される命令コードに対応してデータ処理を個々に実行する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントの動作状態を状態管理部が命令コードからなるコンテキストにより動作サイクルごとに順次遷移させる。

【0 0 2 2】

上述のようなアレイ型プロセッサにおける第1の発明では、多数のプロセッサエレメントが複数のエレメント領域に区分されており、これら複数のエレメント領域に1個の状態管理部が接続されており、相違する動作サイクルに発生する所定数の動作状態がコンテキストの少なくとも一部に設定されており、1つのコン

テキストに設定されている所定数の動作状態に対応したエレメント領域の動作を状態管理部が動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させる。

【0 0 2 3】

第 2 の発明では、複数のエレメント領域に同数の状態管理部が個々に接続されており、1 つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応した状態管理部が接続されているエレメント領域の動作を動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させる。

【0 0 2 4】

第 3 の発明では、多数のプロセッサエレメントが $(a \times b)$ 個のエレメント領域に区分されており、これら $(a \times b)$ 個のエレメント領域の b 個ごとに a 個の状態管理部が個々に接続されており、1 つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応したエレメント領域の動作を接続されている状態管理部が動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させる。

【0 0 2 5】

本発明のアレイ型プロセッサでは、上述のように複数のエレメント領域の個々の動作を状態管理部が一時停止させるので、コンテキストの 1 つに設定されている複数の動作状態に対応してエレメント領域が選択的に動作する。なお、本発明で云う“複数”とは、“2”以上の任意の整数を意味しており、“多数”とは、上記の“複数”より以上の任意の整数を意味している。

【0 0 2 6】

【発明の実施の形態】

[実施の形態の構成]

本発明の実施の形態を、図 1 ないし図 3 を参照して以下に説明する。まず、本形態のアレイ型プロセッサ 1 0 0 は、図 3 に示すように、状態管理部 1 0 1、プロセッサエレメント 1 0 2、メモリコントローラ 1 0 3、リードマルチプレクサ 1 0 4、等を主要構造として有している。

【0 0 2 7】

さらに、図 1 に示すように、本形態のアレイ型プロセッサ 1 0 0 では、状態管理部 1 0 1 が相互通信して連携動作する複数からなり、多数のプロセッサエレ

ント 102 が状態管理部 101 に対応した個数のエレメント領域 105 に区分されている。

【0028】

そして、複数の状態管理部 101 が複数のエレメント領域 105 ごとにプロセッサエレメント 102 に接続されており、複数の状態管理部 101 が接続されているプロセッサエレメント 102 のエレメント領域 105 に個々に配置されている。

【0029】

より詳細には、多数のプロセッサエレメント 102 が複数のエレメント領域 105 ごとに行列形状に配列されており、矩形に区分された複数のエレメント領域 105 も行列形状に配列されている。そして、状態管理部 101 がエレメント領域 105 でのプロセッサエレメント 102 の一行と同等な形状に形成されており、エレメント領域 105 の列方向の略中央に状態管理部 101 が配置されている。

【0030】

なお、以下では説明を簡単とするため、図示するように、本形態のアレイ型プロセッサ 100 には 4 個のエレメント領域 105-1 ~ 4 が 2 行 2 列に配列されており、エレメント領域 105 の各々に 16 個のプロセッサエレメント 102 が 4 行 4 列に配列されているとする。

【0031】

さらに、図 1 の左右方向が行方向で上下方向が列方向とし、各行は列方向に配列されており、各列は行方向に配列されているとする。このため、状態管理部 101 は、エレメント領域 105 の一行の 4 個のプロセッサエレメント 102 と同等な形状に形成されており、エレメント領域 105 のプロセッサエレメント 102 の 2 行目と 3 行目との中間に配置されているとする。

【0032】

図 3 に示すように、メモリコントローラ 103 は、外部入力される各種データをエレメント領域 105 の状態管理部 101 とプロセッサエレメント 102 とに伝送し、リードマルチプレクサ 104 は、プロセッサエレメント 102 から読み

出された各種データを外部出力する。

【0033】

プロセッサエレメント102は、メモリコントローラ103から入力される各種データでデータ処理を実行し、データ処理した各種データをリードマルチプレクサ104に出力する。状態管理部101は、そのエレメント領域105のプロセッサエレメント102の状態遷移を管理することにより、そのエレメント領域105のプロセッサエレメント102に各種のデータ処理を実行させる。

【0034】

より詳細には、エレメント領域105には、図2および図3に示すように、多数のプロセッサエレメント102とともに、多数のスイッチエレメント108も行列形状に配列されており、そのスイッチエレメント108を介して多数のmb(m-bit)バス109と多数のnb(n-bit)バス110とで多数のプロセッサエレメント102がマトリクス接続されている。

【0035】

また、図2(b)に示すように、プロセッサエレメント102は、メモリ制御回路111、インストラクションメモリ112、インストラクションデコーダ113、mbレジスタファイル115、nbレジスタファイル116、mbALU(Arithmetic and Logical Unit)117、nbALU118、内部可変配線(図示せず)、等を各々有しており、スイッチエレメント108は、バスコネクタ121、入力制御回路122、出力制御回路123、等を各々有している。

【0036】

さらに、複数の状態管理部101は、図3に示すように、インストラクションデコーダ138、遷移テーブルメモリ139、インストラクションメモリ140、などを有しており、メモリコントローラ103に命令バス141で接続されている。

【0037】

また、メモリコントローラ103からリードマルチプレクサ104まで8行の命令バス142が並列に接続されており、これら8行の命令バス142が、1行ごとに8列のプロセッサエレメント102のメモリ制御回路111に接続されて

いる。

【0038】

また、状態管理部101の1個のインストラクションデコーダ138には2組の4列のアドレスバス143が接続されており、このアドレスバス143が1列ごとに2行のプロセッサエレメント102のメモリ制御回路111に接続されている。

【0039】

なお、命令バス141は、例えば、“20(bit)”のバス幅に形成されており、命令バス142およびアドレスバス143は、例えば、“8(bit)”のバス幅に形成されており、メモリコントローラ103は、4個の状態管理部101に命令バス141で接続されている。

【0040】

ただし、本形態のアレイ型プロセッサ100では、前述のようにエレメント領域105ごとに状態管理部101がプロセッサエレメント102に接続されているので、その状態管理部101は接続されているプロセッサエレメント102のみ状態管理を実行する。

【0041】

また、本形態のアレイ型プロセッサ100では、外部から供給されるコンピュータプログラムに、エレメント領域105の多数のプロセッサエレメント102と多数のスイッチエレメント108との命令コードが、順次切り換わるコンテキストとしてデータ設定されており、このコンテキストを動作サイクルごとに切り換える状態管理部101の命令コードが、順次遷移する動作状態としてデータ設定されている。

【0042】

このため、状態管理部101は、図2に示すように、上述のような自身の命令コードがインストラクションメモリ140にデータ格納されており、複数の動作状態を順次遷移させる遷移ルールが遷移テーブルメモリ139にデータ格納されている。

【0043】

状態管理部 101 は、遷移テーブルメモリ 139 の遷移ルールに対応して動作状態を順次遷移させ、インストラクションメモリ 140 の命令コードによりプロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 とのインストラクションポインタを発生する。

【0044】

図 2 (b) に示すように、スイッチエレメント 108 は、隣接するプロセッサエレメント 102 のインストラクションメモリ 112 を共用しているので、状態管理部 101 は、発生したプロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 とのインストラクションポインタを対応するプロセッサエレメント 102 のインストラクションメモリ 112 に供給する。

【0045】

このインストラクションメモリ 112 には、プロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 との複数の命令コードがデータ格納されているので、状態管理部 101 から供給される 1 つのインストラクションポインタでプロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 との命令コードが指定される。インストラクションデコーダ 113 は、インストラクションポインタで指定された命令コードをデコードし、スイッチエレメント 108、内部可変配線、 m/n b ALU 117, 118、等の動作を制御する。

【0046】

m b バス 109 は m b である “8 (bit)” の処理データを伝送し、 n b バス 110 は n b である “1 (bit)” の処理データを伝送するので、スイッチエレメント 108 は、インストラクションデコーダ 113 の動作制御に対応して m/n b バス 109, 110 による多数のプロセッサエレメント 102 の接続関係を制御する。

【0047】

より詳細には、スイッチエレメント 108 のバスコネクタ 121 は、 m b バス 109 と n b バス 110 とが四方から連通しており、このように連通している複数の m b バス 109 の互いの接続関係と連通する複数の n b バス 110 の互いの接続関係とを制御する。

【0048】

このため、アレイ型プロセッサ100は、外部から供給されるコンピュータプログラムに対応して、複数のエレメント領域105ごとに状態管理部101がプロセッサエレメント102のコンテキストを動作サイクルごとに順次切り換え、その段階ごとに多数のプロセッサエレメント102は個々に設定自在なデータ処理で並列動作する。

【0049】

入力制御回路122は、図2(b)に示すように、mbバス109からmbレジスタファイル115およびmbALU117へのデータ入力の接続関係と、nbバス110からnbレジスタファイル116およびnbALU118へのデータ入力の接続関係とを制御する。

【0050】

出力制御回路123は、mbレジスタファイル115およびmbALU117からmbバス109へのデータ出力の接続関係と、nbレジスタファイル116およびnbALU118からnbバス110へのデータ出力の接続関係とを制御する。

【0051】

プロセッサエレメント102の内部可変配線は、インストラクションデコーダ113の動作制御に対応して、プロセッサエレメント102の内部でのmbレジスタファイル115およびmbALU117の接続関係とnbレジスタファイル116およびnbALU118の接続関係とを制御する。

【0052】

mbレジスタファイル115は、内部可変配線に制御される接続関係に対応して、mbバス109などから入力されるmbの処理データを一時保持してmbALU117などに出力する。nbレジスタファイル116は、内部可変配線に制御される接続関係に対応して、nbバス110などから入力されるnbの処理データを一時保持してnbALU118などに出力する。

【0053】

mbALU117は、インストラクションデコーダ113の動作制御に対応し

たデータ処理を m b の処理データで実行し、 n b ALU 118 は、インストラクションデコーダ 113 の動作制御に対応したデータ処理を n b の処理データで実行するので、処理データのビット数に対応して m/n b のデータ処理が適宜実行される。

【0054】

このエレメント領域 105 ごとのプロセッサエレメント 102 での処理結果は必要により状態管理部 101 にイベントデータとしてフィードバックされるので、この状態管理部 101 は入力されたイベントデータにより動作状態を次の動作状態に遷移させるとともにプロセッサエレメント 102 のコンテキストを次段のコンテキストに切り換える。

【0055】

ただし、本形態のアレイ型プロセッサ 100 では、コンテキストの少なくとも一部に、相違する動作サイクルに発生する所定数の動作状態が設定されており、その 1 つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応した状態管理部 101 が、接続されているエレメント領域 105 の動作を動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させる。

【0056】

[実施の形態の動作]

上述のような構成において、本実施の形態のアレイ型プロセッサ 100 では、外部から供給されるコンピュータプログラムに対応して、外部入力される処理データでデータ処理を実行する場合、複数のエレメント領域 105 ごとに状態管理部 101 が動作状態を順次遷移させるとともにプロセッサエレメント 102 のコンテキストを動作サイクルごとに順次切り換える。このため、その動作サイクルごとに多数のプロセッサエレメント 102 が個々に設定自在なデータ処理で並列動作し、その多数のプロセッサエレメント 102 の接続関係を多数のスイッチエレメント 108 が切換制御する。

【0057】

ただし、本形態のアレイ型プロセッサ 100 では、上述のように順次遷移されるコンテキストの少なくとも一部に、相違する動作サイクルに発生する所定数の

動作状態が設定されており、その1つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応した状態管理部101が、接続されているエレメント領域105の動作を動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させる。

【0058】

[実施の形態の効果]

本実施の形態のアレイ型プロセッサ100では、従来例で説明したように、複数のコンテキストごとに極力多数のプロセッサエレメントを設定することができるので、コンテキストの個数を削減してコンピュータプログラムのデータ容量を減少させることができる。さらに、状態管理部によるデータパス部のコンテキストの切換回数も削減できるので、その消費電力も低減することができる。

【0059】

それでいて、本形態のアレイ型プロセッサ100では、上述のように複数の状態管理部101が複数のエレメント領域105を個々に一時停止させるので、コンテキストの1つに設定された複数の動作状態に対応した動作を良好に実行することができる。

【0060】

なお、上述のように状態管理部101が接続されているプロセッサエレメント102の動作を一時停止させる機能は、本出願人が特開2001-312481号として出願したアレイ型プロセッサにもある。換言すると、従来から公知の機能を複数の状態管理部101に適用することで、本形態のアレイ型プロセッサ100では複数のエレメント領域105を個々に一時停止させるので、コンテキストの1つに設定された複数の動作状態に対応した動作を簡単に実現することができる。

【0061】

[実施の形態の変形例]

本発明は上述の実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で各種の変形が可能である。例えば、上記形態ではエレメント領域105やプロセッサエレメント102の個数や配列の数値を具体的に例示したが、当然ながら、その数値は各種に設定することが可能である。

【 0 0 6 2 】

また、上記形態では複数のエレメント領域 1 0 5 に同数の状態管理部 1 0 1 が個々に接続されていることを例示したが、例えば、複数のエレメント領域 1 0 5 に 1 個の状態管理部 1 0 1 が接続されており、1 つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応したエレメント領域 1 0 5 の動作を状態管理部 1 0 1 が動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させることも可能である。

【 0 0 6 3 】

この場合、1 個の状態管理部 1 0 1 が複数のエレメント領域 1 0 5 の動作を個々に一時停止させることで、コンテキストの 1 つに設定された複数の動作状態に対応した動作を実現することができる。さらに、このように複数のエレメント領域 1 0 5 の動作を個々に制御できる状態管理部 1 0 1 を複数とすることにより、より多数のエレメント領域 1 0 5 の動作を複数の状態管理部 1 0 1 で個々に制御することも可能である。

【 0 0 6 4 】

また、上記形態では状態管理部 1 0 1 がコンテキストの複数の動作状態に対応して複数のエレメント領域 1 0 5 を選択的に一時停止させることを例示したが、複数のエレメント領域 1 0 5 の一部が完全に一時停止すると、複数のエレメント領域 1 0 5 でのデータ共有などに支障が発生することも想定できる。

【 0 0 6 5 】

そこで、これが問題となる場合には、状態管理部 1 0 1 が一時停止させるエレメント領域 1 0 5 の複数のプロセッサエレメント 1 0 2 の一部を動作させることで、データ共有する複数のエレメント領域 1 0 5 の一部が一時停止しても問題が発生しないようにすることも可能である。

【 0 0 6 6 】

さらに、本出願人が特願 2 0 0 2 - 2 9 9 0 2 9 号として出願したように、複数のエレメント領域 1 0 5 で共有される共有リソースをアレイ型プロセッサ 1 0 1 に搭載した場合(図示せず)、同一のコンテキストの複数の動作状態により複数のエレメント領域 1 0 5 が共有リソースを共有するとき、一時停止しているエレ

メント領域 105 は共有リソースへのパスを切り換えることができない。

【0067】

そこで、これが問題となる場合には、複数のエレメント領域 105 から共有リソースへのパスを状態管理部 101 が切り換えることにより、共有リソースを共有する複数のエレメント領域 105 の一部が一時停止しても問題が発生しないようにすることも可能である。

【0068】

また、上記形態のアレイ型プロセッサ 100 では、 m/n b レジスタファイル 115, 116 や m/n b ALU 117, 118 を各々有しているプロセッサエレメント 102 が m/n b バス 109, 110 で接続されており、 m/n b でデータ処理およびデータ通信を実行することを例示した。

【0069】

しかし、三種類以上のビット数のハードウェアで三種類以上のビット数のデータ処理およびデータ通信を実行することも可能であり、一種類のビット数のハードウェアで一種類のビット数のデータ処理およびデータ通信を実行することも可能である。

【0070】

また、上記形態のアレイ型プロセッサ 100 では、隣接するプロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 とでインストラクションメモリ 112 を共用させ、プロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 との命令コードを 1 つのインストラクションポインタで発生させることを例示した。

【0071】

しかし、プロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 とに専用のインストラクションメモリを個別に用意することも可能であり、プロセッサエレメント 102 とスイッチエレメント 108 との命令コードを各々専用のインストラクションポインタで個別に発生させることも可能である。

【0072】

また、上記形態では図示と説明とを簡単とするため、プロセッサエレメント 102 の 1 個ごとに m/n b バス 109, 110 が行列方向に 1 本ずつ接続されて

いることを例示したが、実際にはプロセッサエレメント 102 の 1 個ごとに m/n バス 109, 110 が数本ずつ接続されていることが好適である。

【0073】

さらに、上記形態のアレイ型プロセッサ 100 では、複数の状態管理部 101 が単純に同一レベルで相互通信して連携動作することを例示したが、例えば、複数の状態管理部 101 の 1 個を上位のマスタとして設定するとともに他を下位のスレーブとして設定することも可能であり、図 12 に示すように、複数の状態管理部 101 の上位に専用の中央管理部 155 を設けることも可能である。

【0074】

この場合、プロセッサエレメント 102 と状態管理部 101 とが出力する複数のイベントデータの全部を中央管理部 155 に入力し、この中央管理部 155 が複数の状態管理部 101 にイベントデータを分配することが好適である。ただし、前述のように状態管理部 101 が多数となると、1 個の中央管理部 155 から遠方の状態管理部 101 にイベントデータを伝送する遅延が問題となる。

【0075】

【発明の効果】

本発明のアレイ型プロセッサでは、複数のエレメント領域の個々の動作を状態管理部が一時停止させることにより、コンテキストの 1 つに設定されている複数の動作状態に対応してエレメント領域を選択的に動作させることができるので、アレイ型プロセッサを良好に動作させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態のアレイ型プロセッサの物理構造を示す模式的なブロック図である。

【図 2】

アレイ型プロセッサの m/n バスなどの物理構造を示すブロック図である。

【図 3】

命令バスなどの物理構造を示すブロック図である。

【図 4】

プロセッサエレメントの割付個数による動作状態とコンテキストとの対応関係を示す模式図である。

【図 5】

連続する複数の動作状態が 1 つのコンテキストに割り付けられた状態を示す模式図である。

【図 6】

プロセッサエレメントの割付個数による動作状態とコンテキストとの対応関係を示す模式図である。

【図 7】

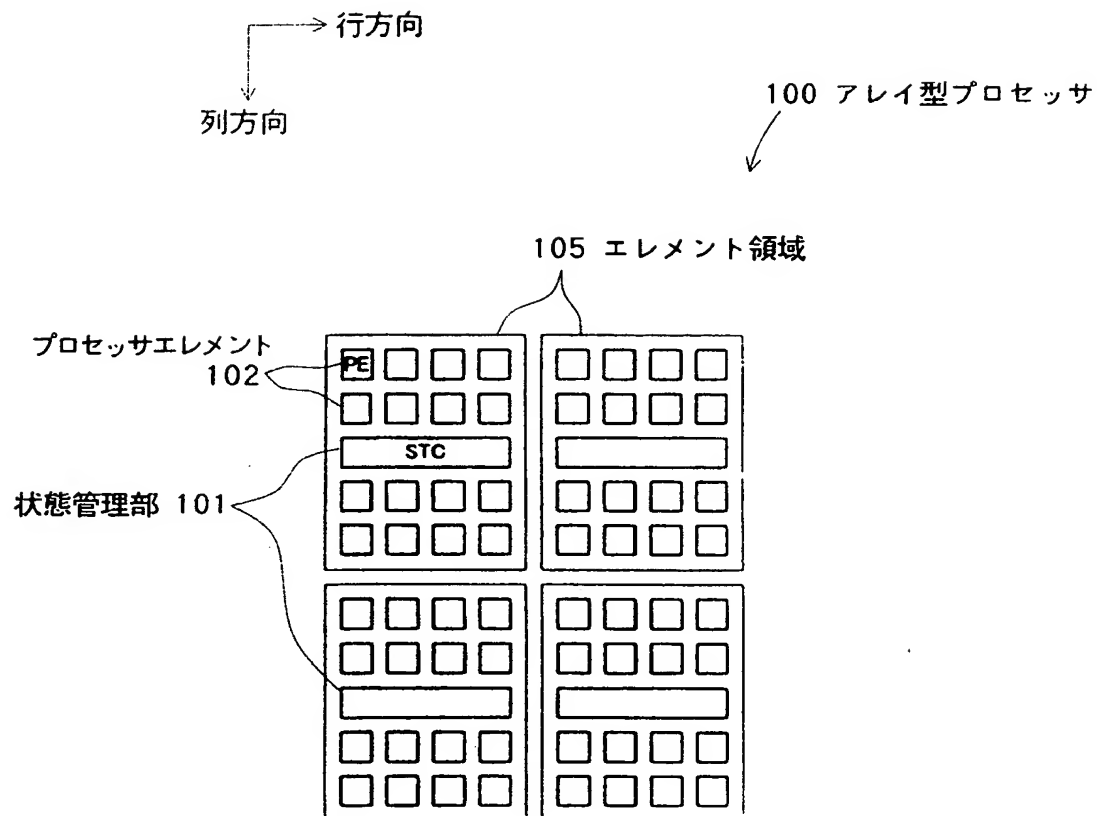
連続しない複数の動作状態が 1 つのコンテキストに割り付けられた状態を示す模式図である。

【符号の説明】

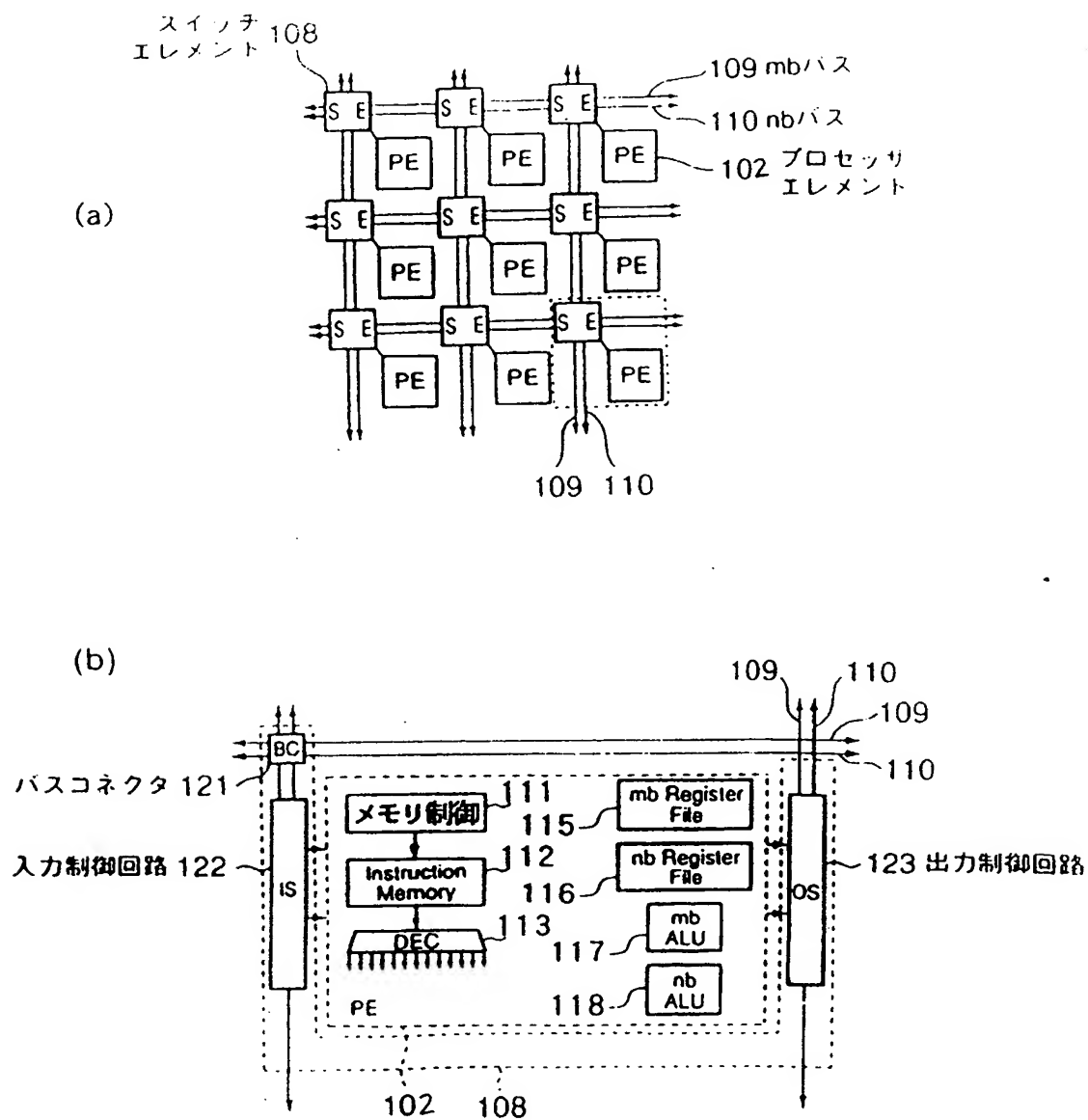
1 0 0	アレイ型プロセッサ
1 0 1	状態管理部
1 0 2	プロセッサエレメント
1 0 5	エレメント領域

【書類名】 図面

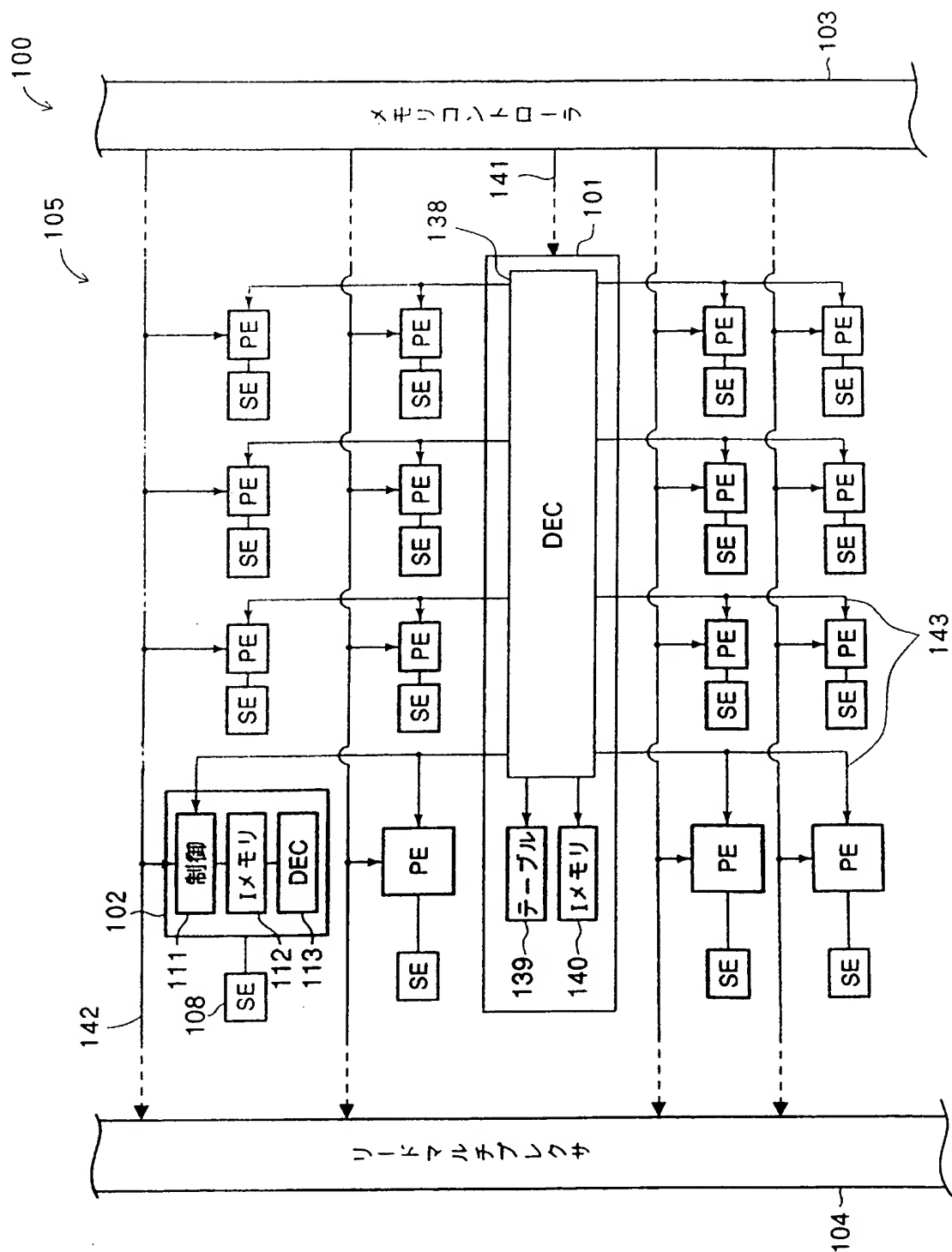
【図 1】



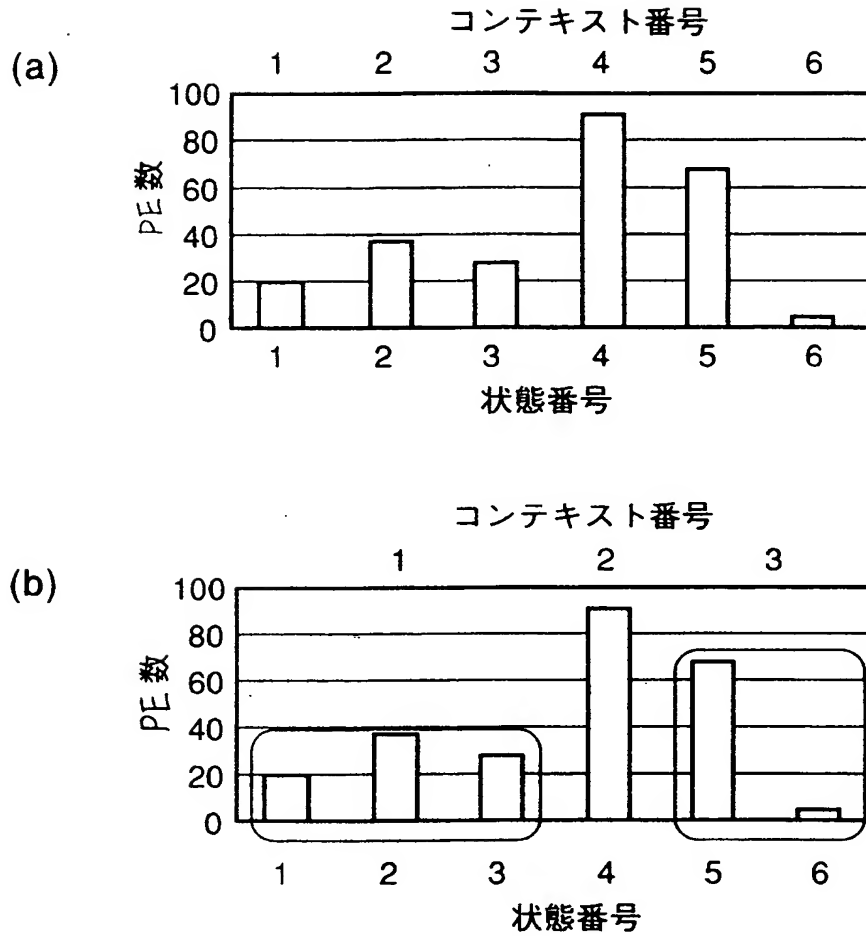
【図 2】



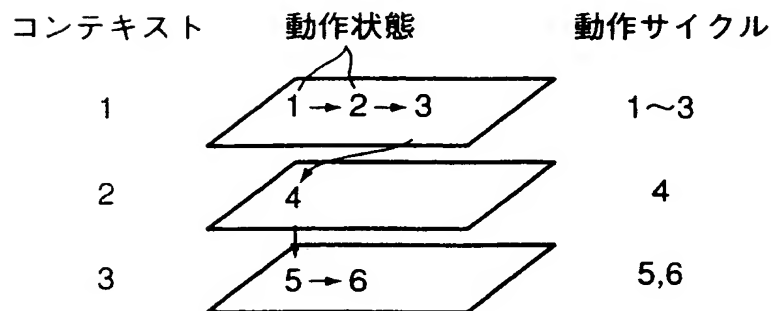
【図 3】



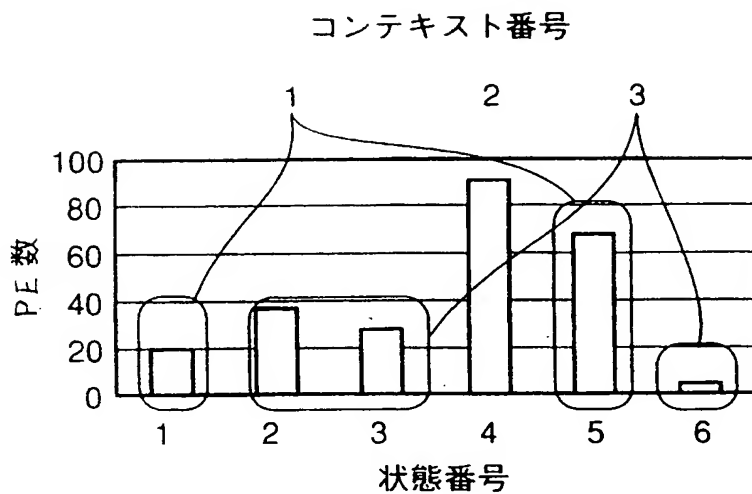
【図 4】



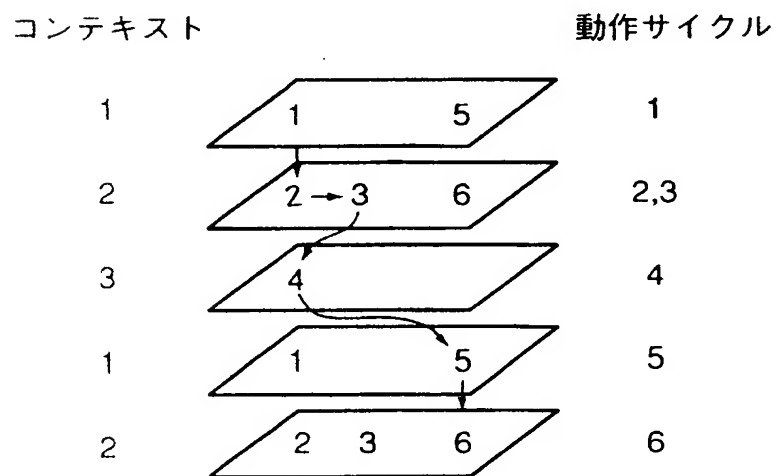
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 データ設定される命令コードに対応してデータ処理を実行する多数のプロセッサエレメントが行列形状に配列されており、これら多数のプロセッサエレメントの動作状態を状態管理部が命令コードからなるコンテキストにより動作サイクルごとに順次遷移させるアレイ型プロセッサにおいて、複数のコンテキストの一部に複数の動作状態を設定しても良好に動作可能とする。

【解決手段】 複数のエレメント領域 1 0 5 に同数の状態管理部 1 0 1 を個々に接続し、1つのコンテキストに設定されている所定数の動作状態に対応した状態管理部 1 0 1 が、接続されているエレメント領域 1 0 5 の動作を動作状態の発生しない動作サイクルのときに一時停止させるので、コンテキストの複数の動作状態が同時に発生することを簡単かつ確実に防止できる。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 0 1 7 8 2 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[3 0 2 0 6 2 9 3 1]

1. 変更年月日

2 0 0 2 年 1 1 月 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県川崎市中原区下沼部 1 7 5 3 番地

氏 名

N E C エレクトロニクス株式会社